資　料　６－１

重点審議事業

道路事業　事後評価

一般国道4号　盛岡北道路（もりおかきた）

令和3年3月1日
国土交通省　東北地方整備局

1. 事業の目的と概要(1)

事業完了後5年経過

○事業目的

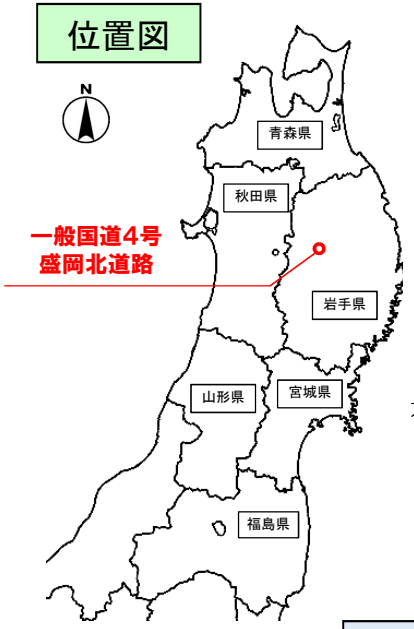
・国道4号茨島(ばらじま)こ線橋～分れ南(わかれみなみ)交差点間の慢性的な交通混雑の緩和や交通安全の確保

・災害時の代替性確保による信頼性向上、高次医療機関への安定した搬送等の支援

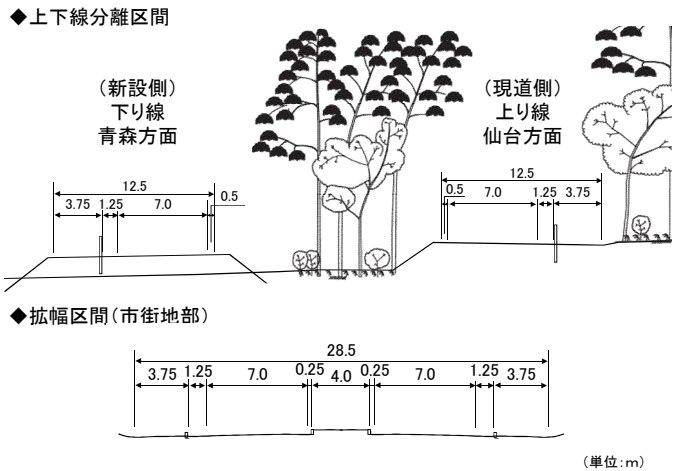
盛岡北道路　計画概要

起終点	：	自：岩手県盛岡市厨川(くりやがわ)三丁目 至：岩手県滝沢(たきざわ)市巣子(すご)
延長	：	3．6km
幅員	：	拡幅区間　28．5m 上下線分離区間 （上り線）12．5m　（下り線）12．5m
道路規格	：	第3種第1級
設計速度	：	80km／h
事業化	：	平成19年度
都市計画決定	：	平成20年度
用地着手	：	平成21年度
工事着手	：	平成24年度
開通	：	平成27年度　（H28．3．26）

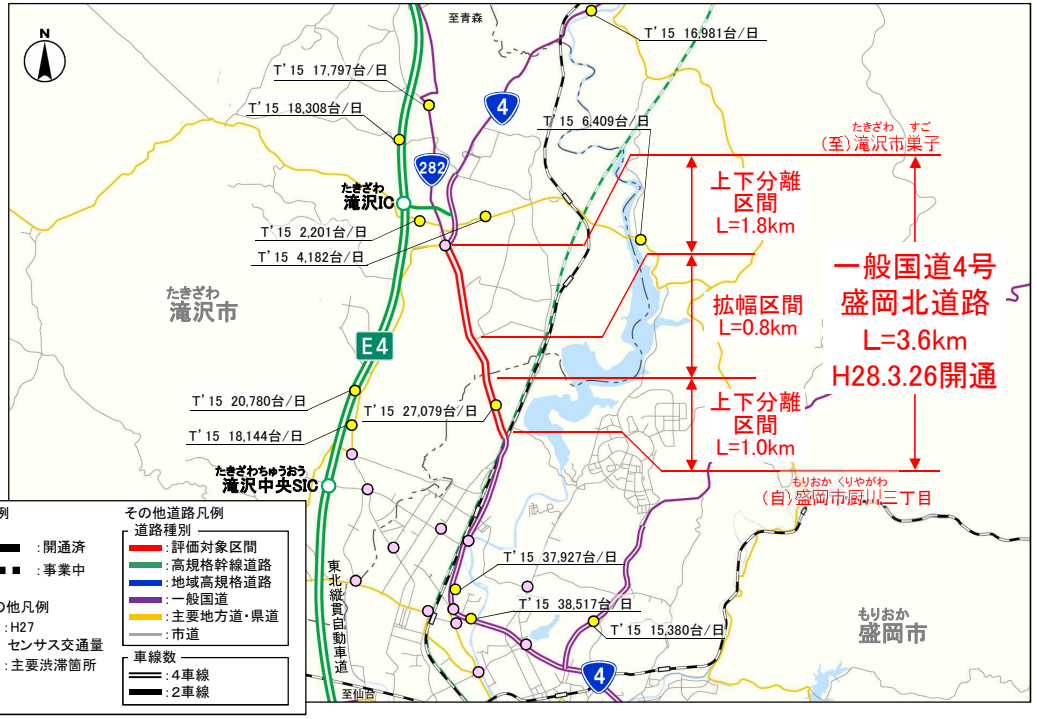
位置図



標準横断図



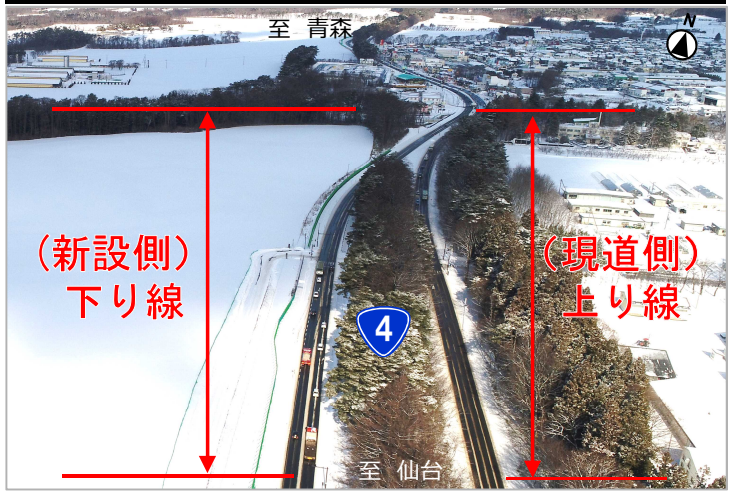
国道4号　盛岡北道路　位置図



1. 事業の目的と概要(2) 整備状況

事業完了後5年経過

①起点から終点方向【H30.1】 ※上下分離区間



②終点から起点方向【R2.9】 ※上下分離区間

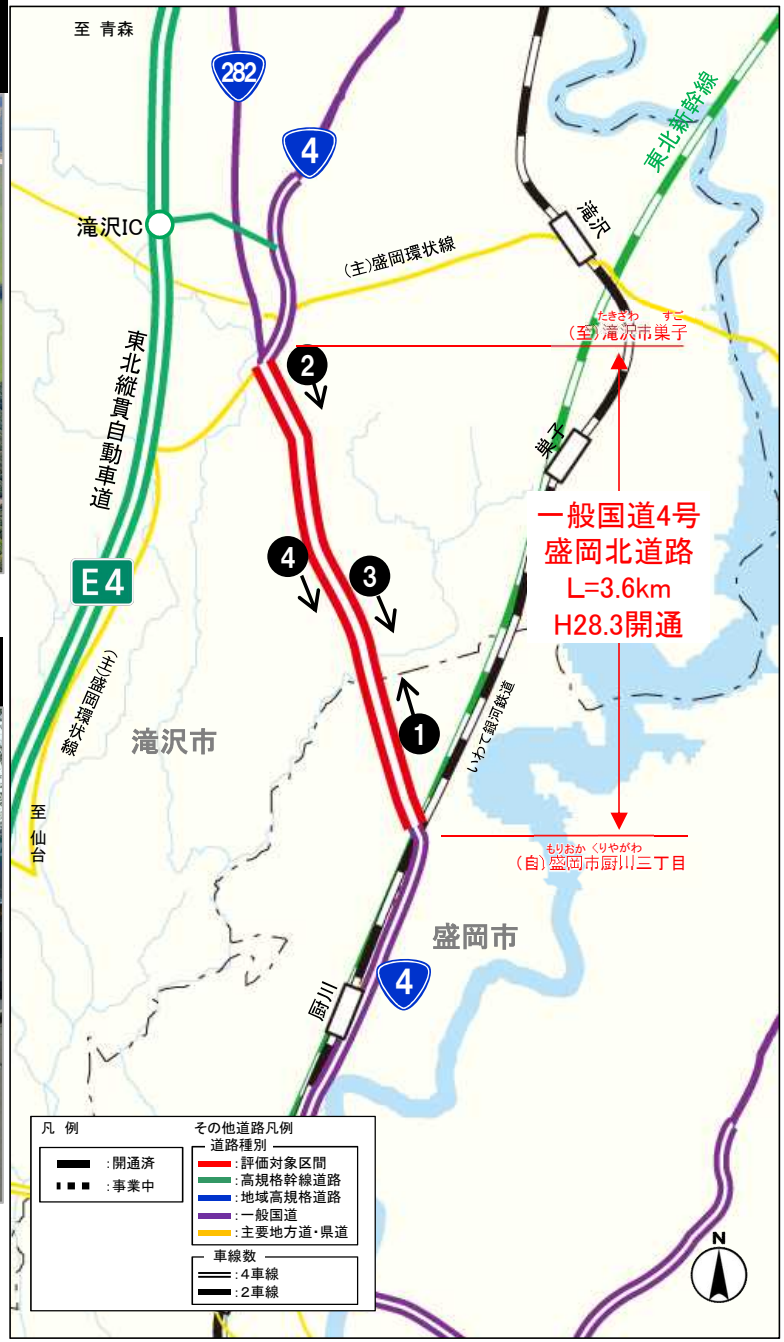


③中心部【H26.12】 ※開通前



④中心部【R2.9】 ※4車線化後





1. 事業の目的と概要(3) 開通記事

事業完了後5年経過

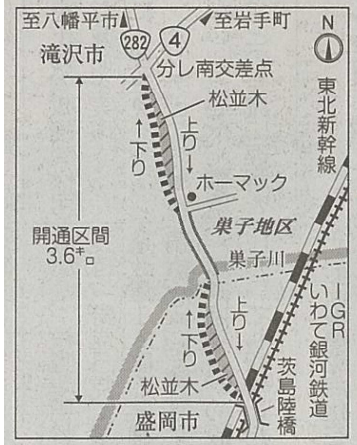
盛岡北道路26日開通 国道4号

岩手河川国道事務所は29日、国道4号「盛岡北道路」の4車線化が完了し、3月26日に開通すると発表した。交通混雑の緩和や安定した救急搬送ルートの確保などの効果が期待される。

盛岡北道路は、盛岡市厨川3丁目の国道4号茨島陸橋から滝沢市巣子の分レ南交差点までの3・6キロの区間で、2車線から4車線に拡幅される。

同区間は盛岡市街地への交通が集中し、慢性的な交通混雑が発生。4車線化により、混雑の緩和や県主要施設へのアクセス向上などが見込まれる。

八幡平市のホウレンソウや岩手町のキャベツなど盛岡市北部地域の特産品の農産物輸送を支援することにつながるほか、災害発生時の物流拠点へのアクセス支援などの効果が期待される。



資料：岩手日報（H28.3.1付）

※この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています

盛岡北道路4車線化完了 滝沢で開通式

国土交通省岩手河川国道事務所（村井禎美所長）が整備していた国道4号盛岡北道路（延長3・6キロ）の4車線化工事が完了し、26日に開通した。慢性的な渋滞緩和のほか、災害発生時のアクセス向上なども期待される。



4車線化工事が完了し、開通した盛岡北道路＝盛岡市厨川

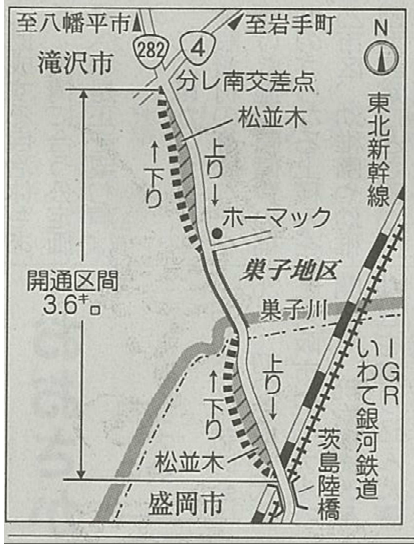
開通式は滝沢市土沢の滝沢ふるさと交流館で行われ、関係者約130人が出席。テープカットとくす玉開きを合図に開通した。

谷藤裕明盛岡市長は「岩手国体の競技会場を結ぶ道路としても大きな役割を担う。利用者の生活向上につながってほしい」、柳村典秀滝沢市長は「市民にとっても長年の悲願。県北、沿岸地域と盛岡広域圏との連携強化や交流促進が期待できる」とあいさつした。

2012年度に着工し、総事業費約54億円。盛岡市厨川3丁目の茨島陸橋から滝沢市巣子の分レ南交差点まで、片側1車線を同2車線に拡幅した。

1日当たりの交通量は10年比6933台増の3万5500台となり、朝夕の渋滞も緩和される見込み。農産物輸送の円滑化、安定した救急搬送ルート確保も図られる。

同工事では構想段階から地元の意見を取り入れる手法を国の道路事業で初めて導入。日本風景街道に登録され、防風林の役割も果たしていた松並木の伐採は最小限に抑え、16年度までにエゴノキやヤマボウシなど約4700本を植樹する。



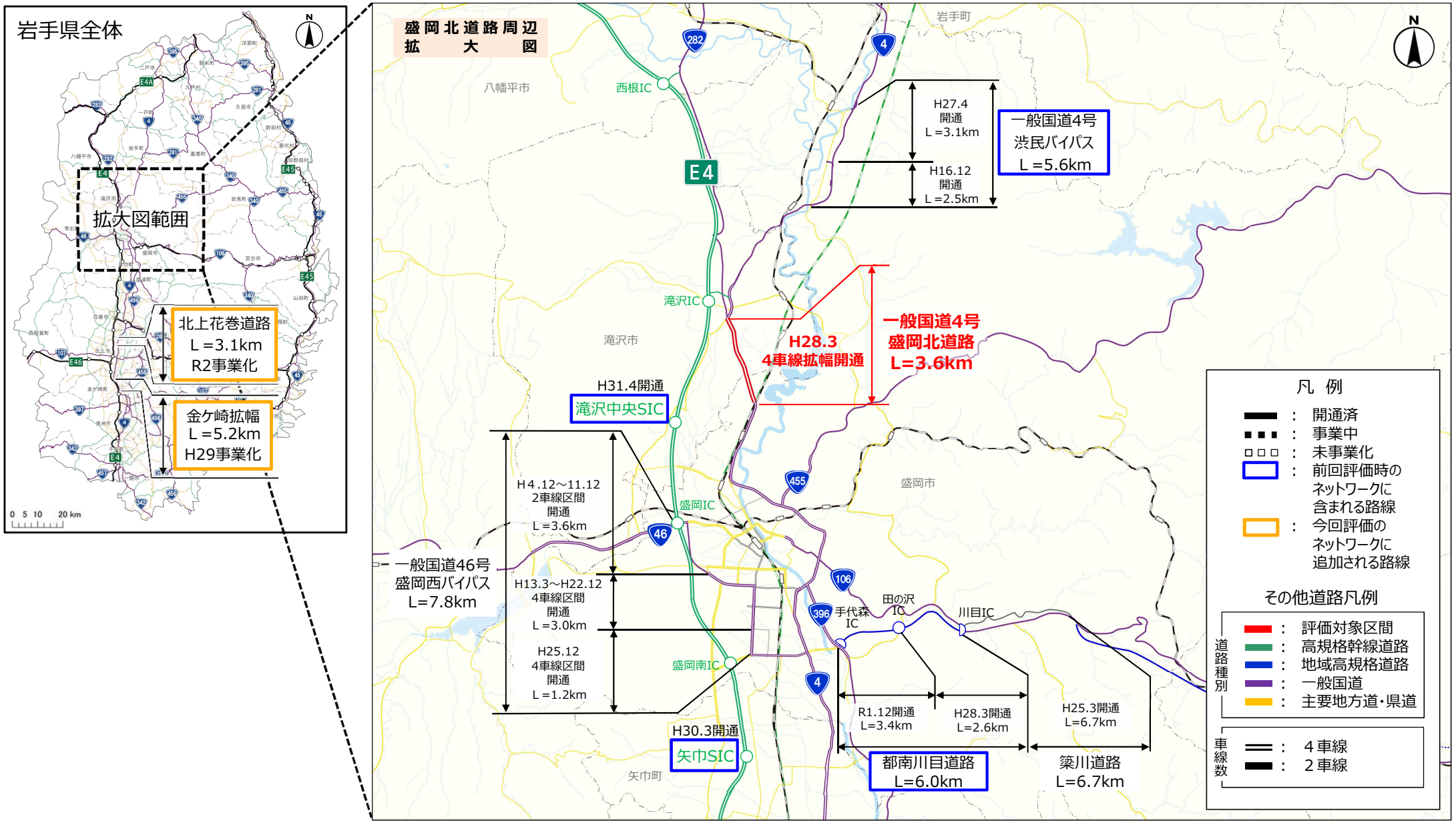
資料：岩手日報（H28.3.27付）

※この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています

2. 前回評価時からの周辺環境等の変化

事業完了後5年経過

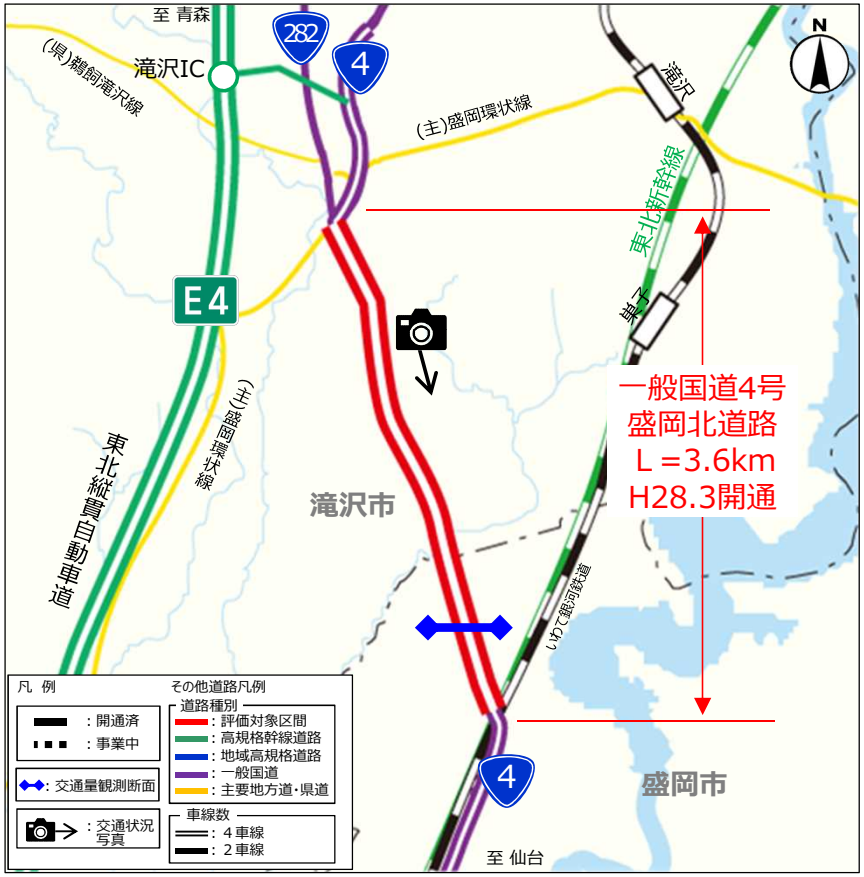
◆一般国道4号渋民バイパスが平成27年4月に全線開通。
◆矢巾SICが平成30年3月、滝沢中央SICが平成31年4月に開通。都南川目道路が令和元年12月に全線開通。
◆金ケ崎拡幅が平成29年度に新規事業化、北上花巻道路が令和2年度に新規事業化。



3. 交通状況の変化等（1） 交通量・所要時間

事業完了後5年経過

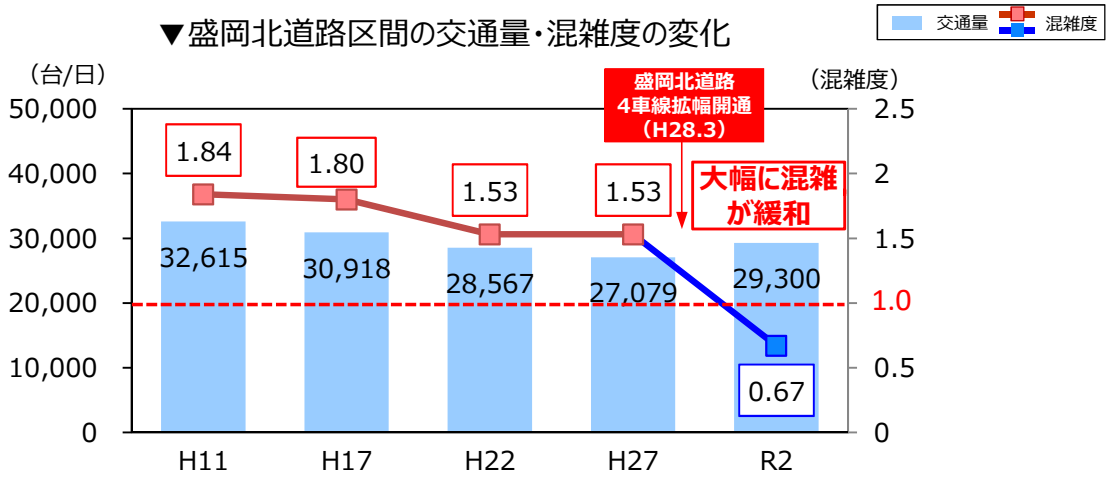
◆対象区間の最新の利用交通量は約29,300台／日。平成28年3月の4車線開通によって交通容量が拡大し、混雑度は約4割改善。
◆また、対象区間の平均速度は約10.7km/h向上し、所要時間が約2.0分短縮。



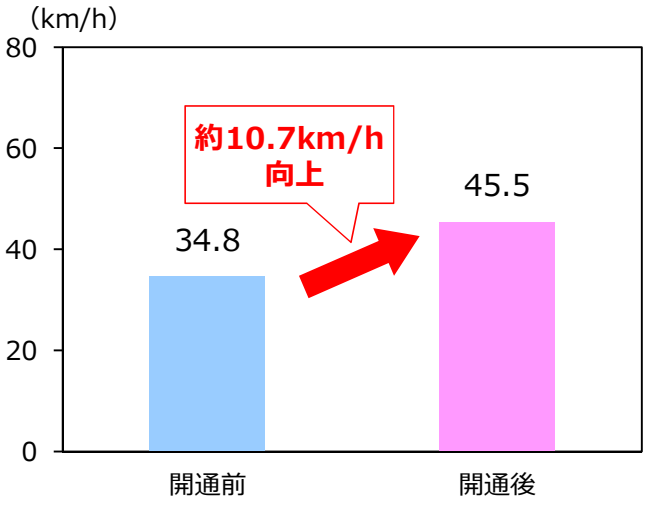
▼交通状況の変化



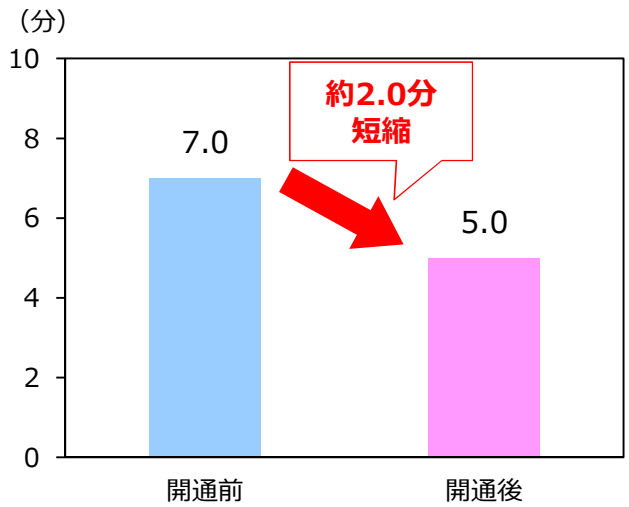
▼盛岡北道路区間の交通量・混雑度の変化



▼盛岡北道路区間のピーク時平均速度の変化



▼盛岡北道路区間のピーク時所要時間の変化

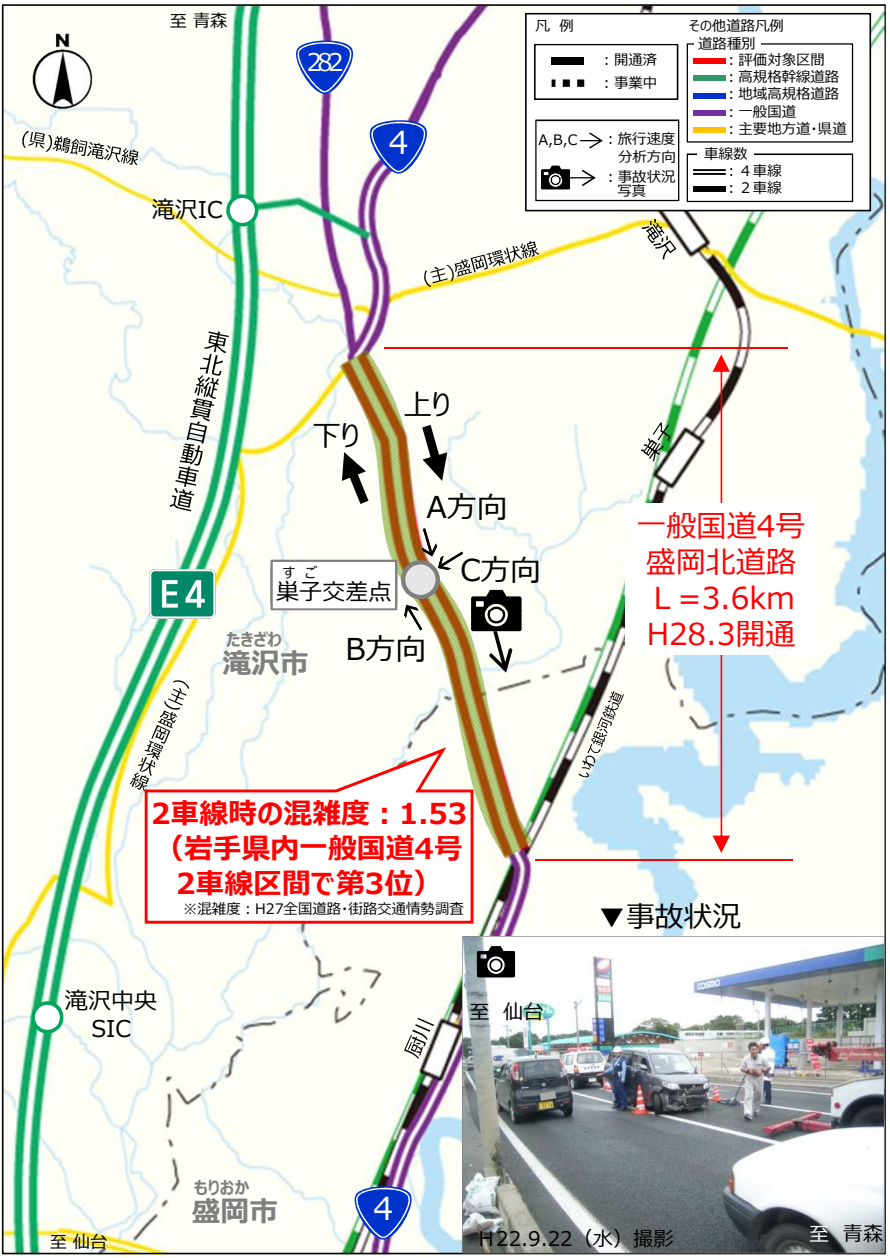


資料：交通量　H11～H27 全国道路・街路交通情勢調査
R2の交通量はR2.10平日平均　トラフィックカウンターデータ　混雑度はトラフィックカウンターデータと標準横断図の拡幅区間(市街地部)の幅員構成を基に試算
速度　ETC2.0プローブデータ　開通前…H27.10平日、夕ピーク時(17-18時台)上下平均)
開通後…R2.10平日、夕ピーク時(17-18時台)上下平均)

4. 事業効果の発現状況（1）混雑緩和・事故減少

事業完了後5年経過

◆4車線化後、巣子交差点の渋滞は解消し、H29年度に主要渋滞箇所から指定解除。
◆開通前は混雑に起因する追突事故が多く発生し安全性が低かったが、開通により対象区間の事故件数は約8割減少。

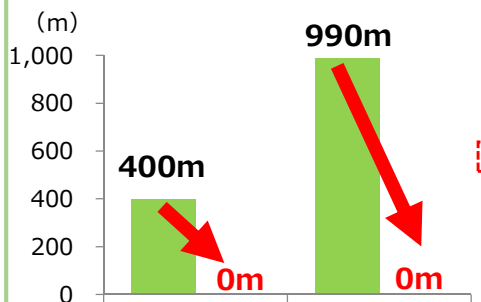


▼事故状況

混雑緩和

▼4車線化前後の巣子交差点の渋滞長（上り）

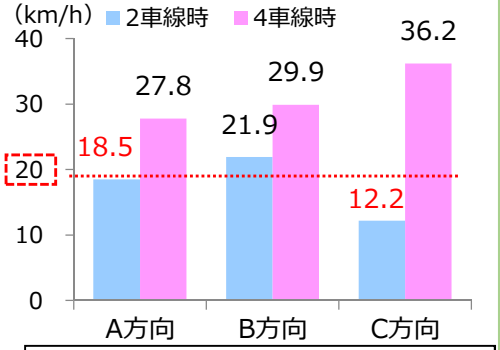
4車線化後、渋滞なし



※渋滞長調査
・4車線化前　平日:H25.8.8(木)、休日:H25.8.11(日)
・4車線化後　平日:H28.5.19(木)、休日:H28.5.15(日)

▼4車線化前後の巣子交差点の旅行速度（休日・17時台）

全方向20km/h以上へ主要渋滞箇所から解除



【主要渋滞箇所基準】
休日において交差点流入2方向で20km/ｈ以下

資料：平成29年度第1回岩手県渋滞対策推進協議会
※基準該当時間帯を記載

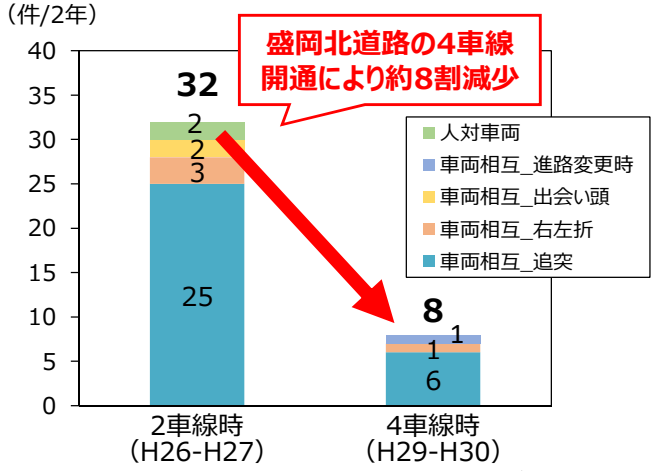
《国道4号沿線企業の声》

◆開通前は巣子交差点付近は混雑する為、周辺の県道等を利用することもあった。
◆4車線化後は、盛岡北道路を利用しており、年中通して**安全な走行が可能**となった。

（R2.1　沿線企業ヒアリング結果）

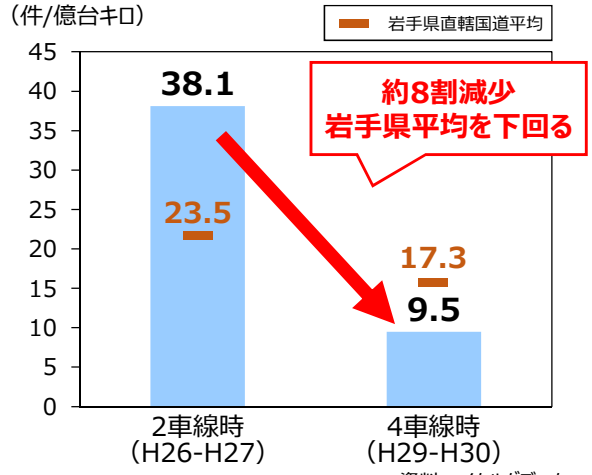
事故減少

▼死傷事故件数の変化



資料：イタルダデータ

▼死傷事故率の変化

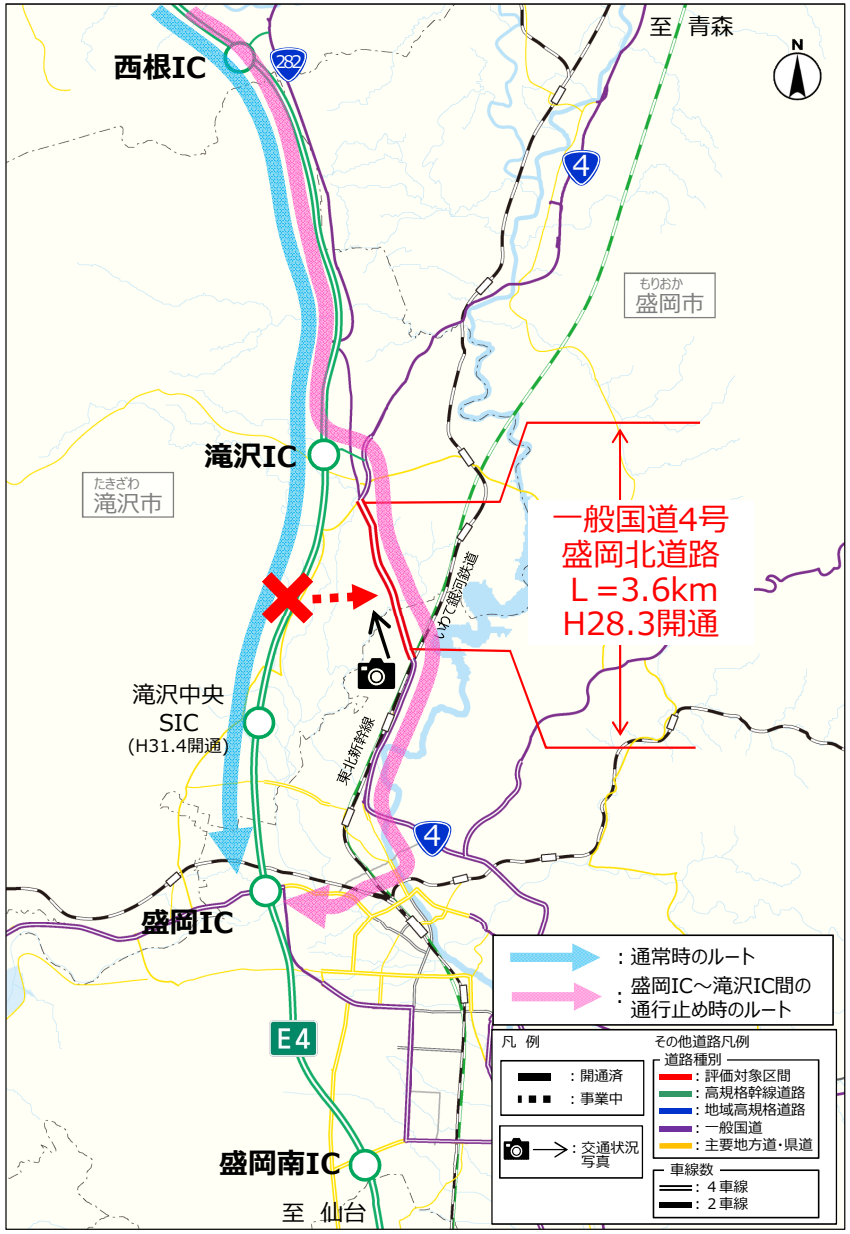


資料：イタルダデータ

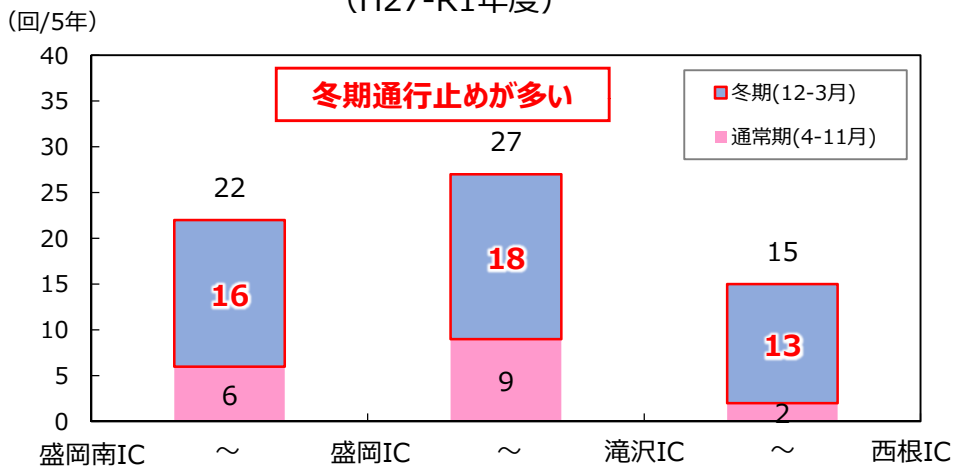
4. 事業効果の発現状況(2) 災害時の信頼性向上

事業完了後5年経過

◆東北縦貫自動車道では通常期に比べて、冬期通行止めが多く、迂回交通が並行する国道4号等へ転換。
◆4車線開通により、東北縦貫自動車道通行止め時の速度が約10km/h向上(2車線時:23.5km/h⇒4車線時:33.1km/h)。
◆東北縦貫自動車道との多重性が確保され、災害時の道路ネットワークの信頼性が向上。



▼東北縦貫自動車道の通行止め実績
(H27-R1年度)



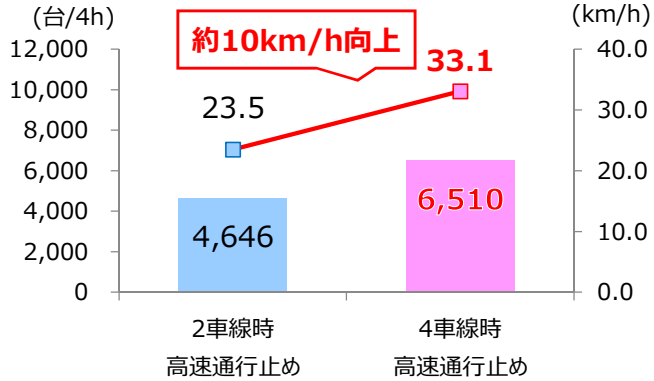
資料:NEXCO提供資料

▼東北縦貫自動車道通行止め時の混雑状況
(2車線時)



▼東北縦貫自動車道通行止め時の
交通量・旅行速度の変化

4車線化後、2車線時と比べて通行止め時の
交通量が増加したが、速度は向上

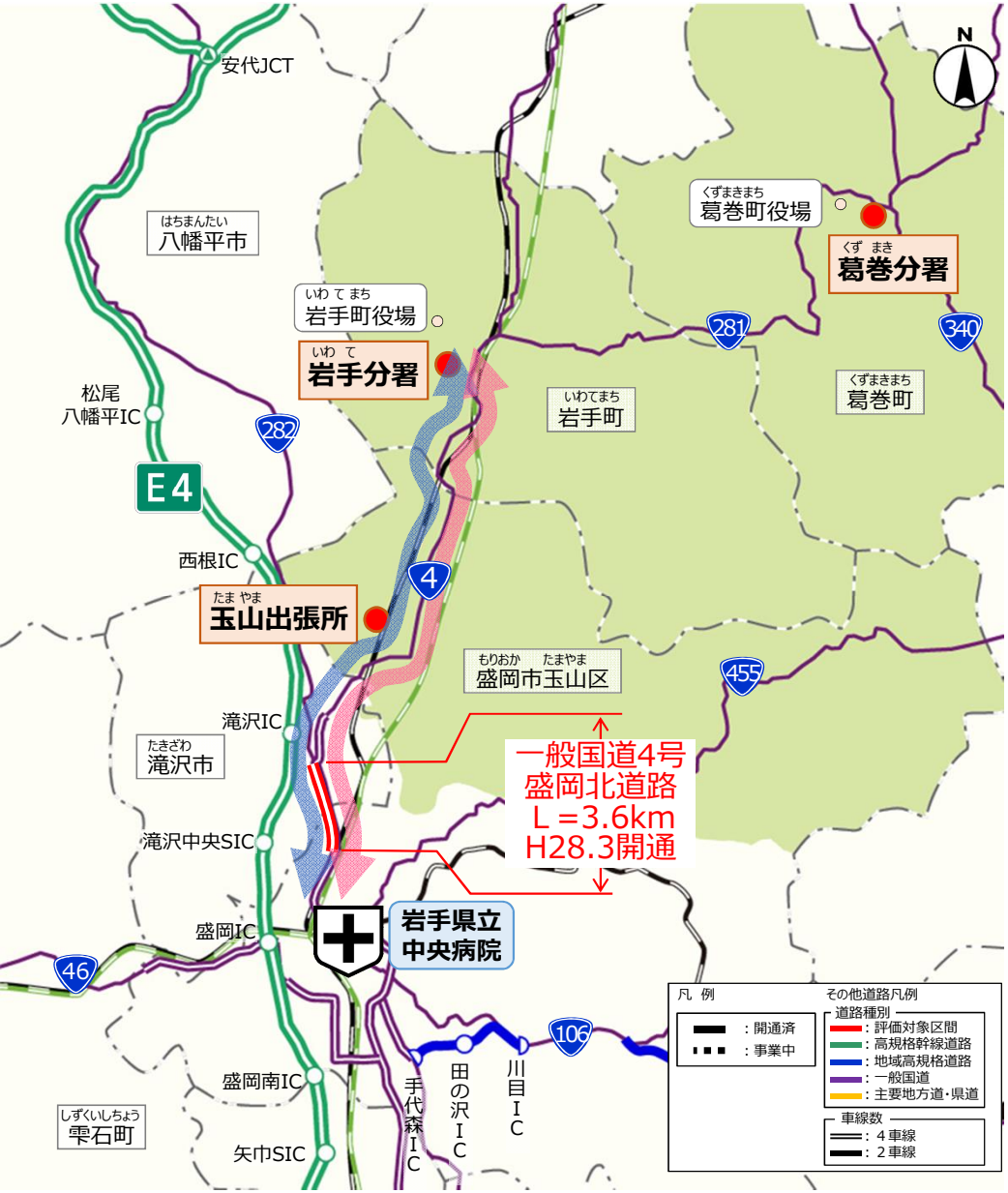


資料:交通量は常時観測データ、旅行速度はETC2.0プローブデータ
・2車線時高速通行止め:H28.3.3 9-12時台 上下平均
・4車線時高速通行止め:H30.3.2 9-12時台 上下平均

4. 事業効果の発現状況（3） 高次医療機関への安定した搬送

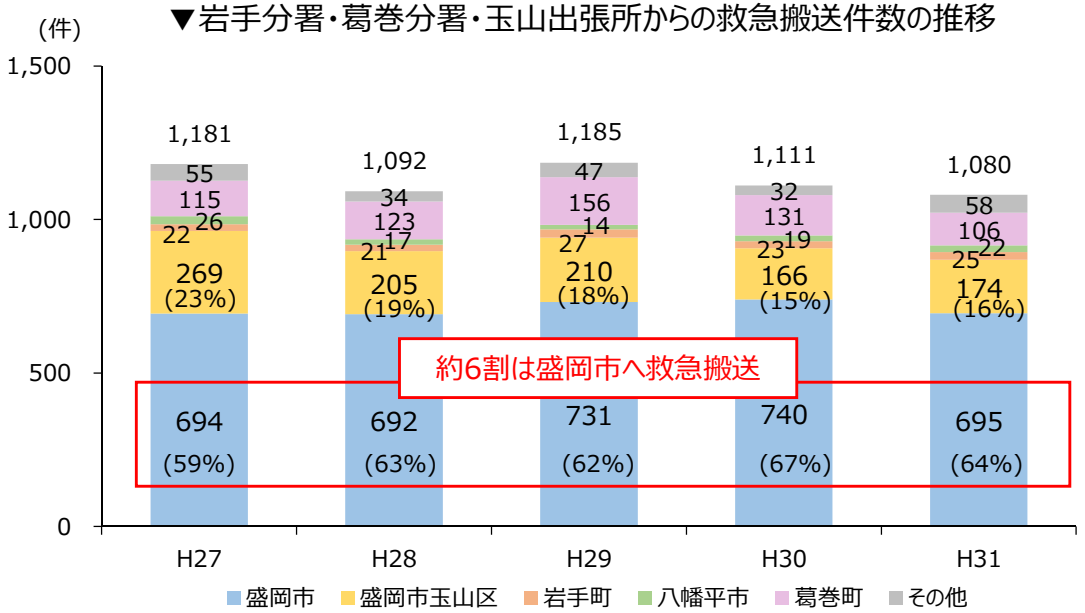
事業完了後5年経過

◆岩手町・葛巻町・盛岡市玉山区からの救急搬送先のうち、約6割が高次医療機関のある盛岡市へ救急搬送。
◆盛岡北道路の開通後、病院への救急搬送時間は約4分短縮され、円滑かつ安定した救急搬送に寄与。



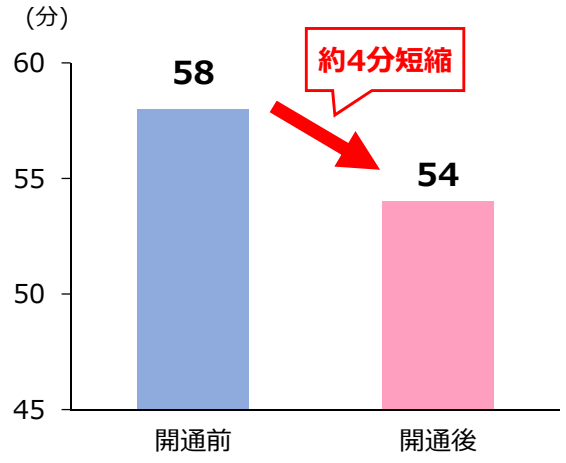
※着色箇所：岩手町、盛岡市玉山区、葛巻町

▼岩手分署・葛巻分署・玉山出張所からの救急搬送件数の推移



資料：盛岡地区広域消防組合消防本部

▼岩手町役場～岩手県立中央病院への救急搬送時間の変化



資料：H27全国道路・街路交通情勢調査の混雑時旅行速度（上り・下り平均）を基に算出
※開通後の盛岡北道路区間は、規制速度50km/hで算出

《救急隊員の声》

◆救急搬送では患者の命に関わるため、**1分1秒**を争っており、患者の**命に関わる重症化を避けることができている**と感じています。

◆拡幅により、患者搬送や帰署時間が短縮し、**次の出動に安心して備えることができる**ようになりました。

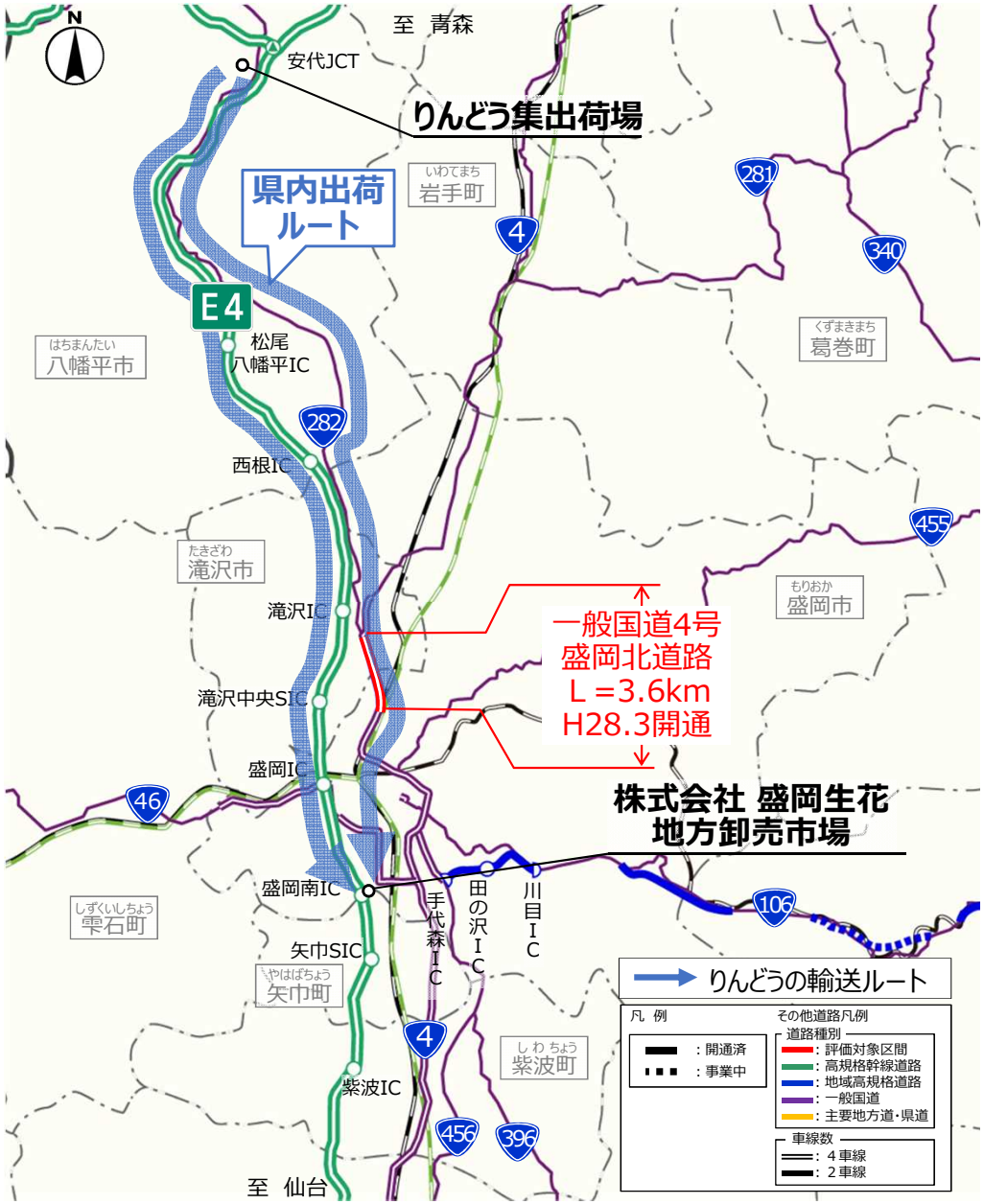
（R1.12 岩手分署ヒアリング結果）

◆4車線化によって渋滞が緩和され、**安定した救急搬送が可能**となりました。（R2.5盛岡地区広域消防組合消防本部ヒアリング結果）

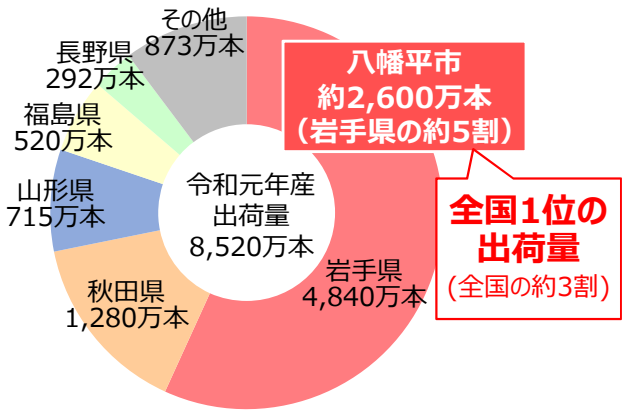
4. 事業効果の発現状況（4） 地域産業の支援

事業完了後5年経過

◆岩手県産りんどうの出荷量は全国1位、そのうち約5割を八幡平市が占めており、「安代（あしろ）りんどう」ブランドとして県内外に出荷。
◆岩手県では花きの振興を図っており、推進品目の一つにりんどうが選定。生産拡大や新たな需要の創出に向けた取組を実施中。
◆盛岡北道路の開通により、盛岡生花地方卸売市場への安定的な輸送ルートを確保し、地域の農業振興を支援。



▼りんどうの都道府県別出荷割合



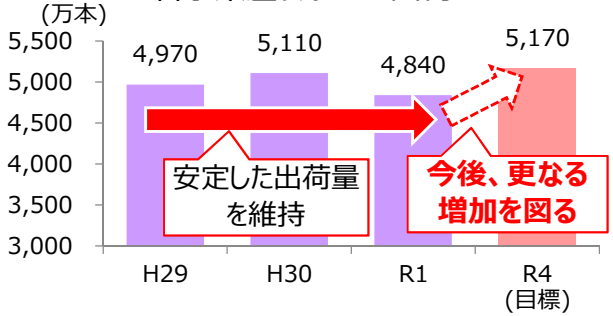
資料：令和元年産作物統計調査（農林水産省）
※八幡平市 JA新いわて八幡平営農経済センターヒアリング結果



《岩手県花き振興計画》

○推進品目の一つに『りんどう』が選定。
【推進方策】 りんどうの**生産拡大、新たな需要の創出**

▼岩手県産りんどうの出荷量



資料：作物統計調査、岩手県花き振興計画（H31.3）
※H29～R1年出荷量は作物統計調査、R4目標値は岩手県花き振興計画

《農業関係者の声》

◆りんどうは、生花なので輸送時間が長いと鮮度に影響する。

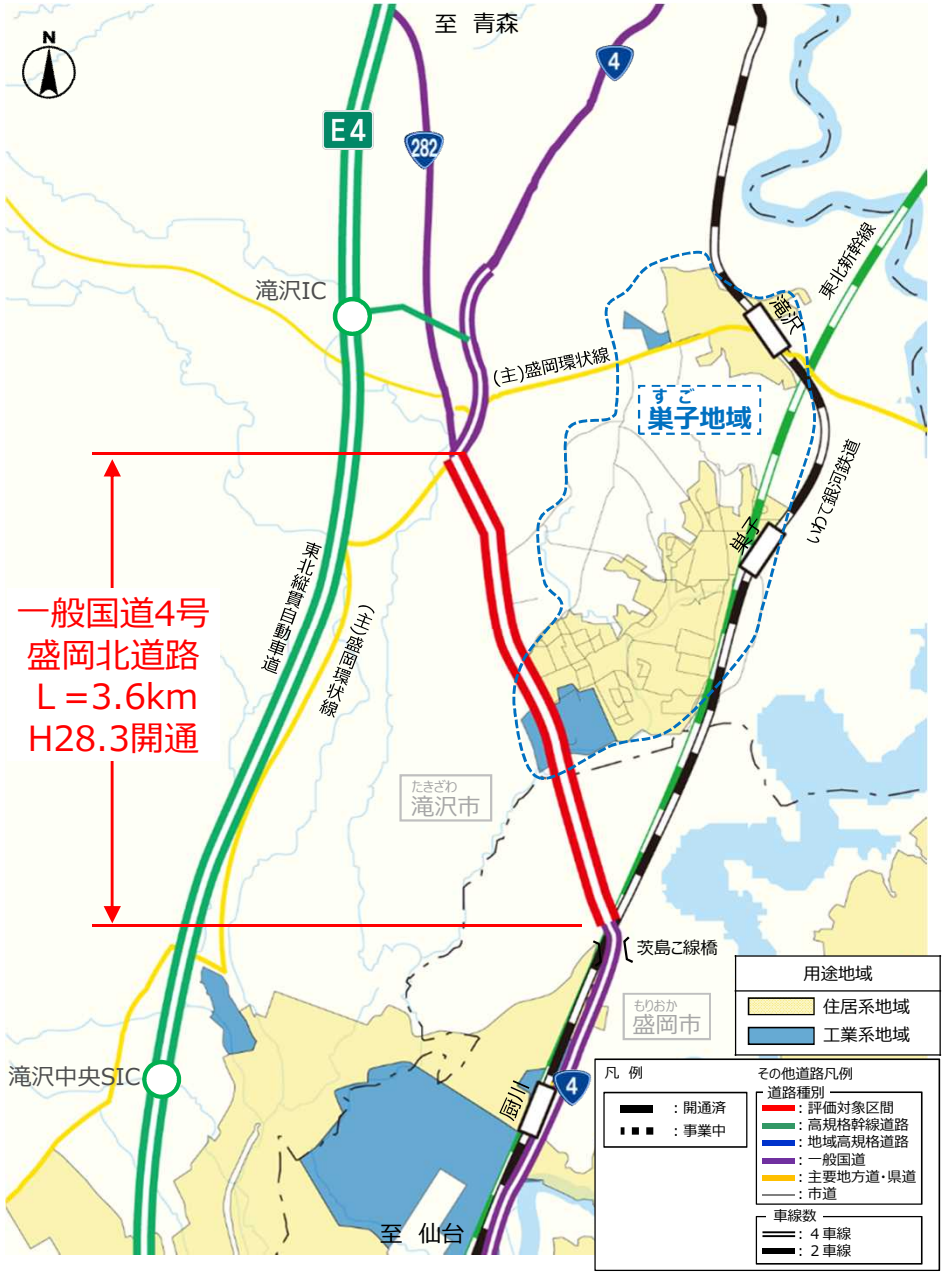
◆道路整備により、混雑緩和による所要時間の短縮で、**鮮度向上や安定輸送に繋がっている**。

（R2.12 JA新いわて 八幡平営農経済センターヒアリング調査結果）

4. 事業効果の発現状況(5) 日常生活の支援

事業完了後5年経過

◆盛岡北道路周辺地域と盛岡市間で約1万9千人/日が通勤・通学。
◆盛岡北道路の開通により通勤利便性が向上し、滝沢市巣子地域では世帯数が増加、住宅地地価も近年上昇傾向。



▼盛岡北道路周辺地域の通勤・通学流動

通勤・通学で
合計約1万9千人/日の流動

八幡平市
滝沢市

二戸市 一戸町
葛巻町 岩手町

約16,635人/日

約2,155人/日

盛岡市

資料：H27国勢調査

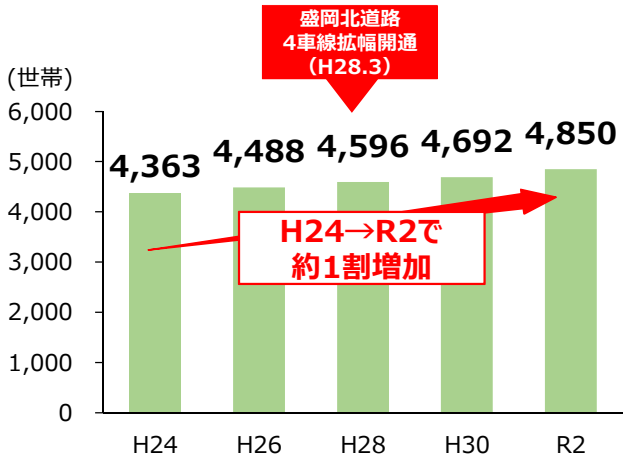
《利用者の声》

◆以前盛岡市方面へ通勤する際、混雑状況を考慮し余裕をもって出発する必要があった。

◆4車線化により、**混雑が解消し、時間短縮や移動時間の定時性が向上**している。

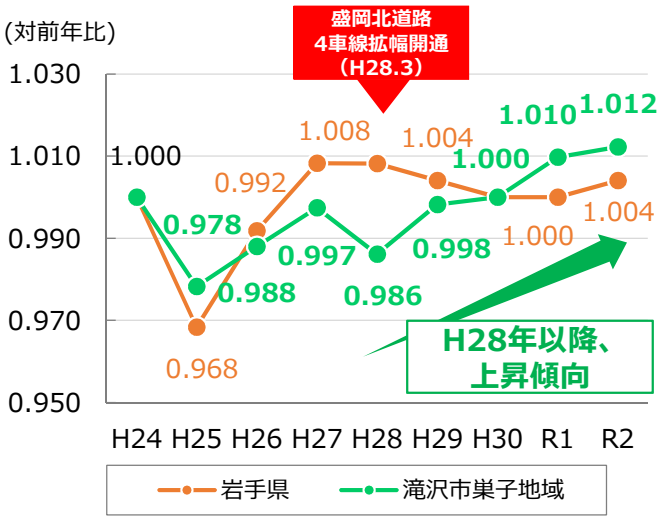
（R1.12 国道４号沿線施設ヒアリング調査結果）

▼滝沢市巣子地域の世帯数の推移



資料：滝沢市
※各年4月末時点
※巣子地域：巣子・狼久保・明神平・葉の木沢山 の合計

▼岩手県・滝沢市巣子地域の「住宅地」地価平均の推移



資料：岩手県地価調査結果

5. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

別添一覧表参照

6. 事業実施による環境の変化

評価対象区間については、工事の実施及び完成後も環境への影響は確認されていない。

7. 社会経済情勢の変化

○高規格幹線道路の整備状況

・東北縦貫自動車道

平成30年3月　矢巾スマートIC　開通

平成31年4月　滝沢中央スマートIC　開通

○一般国道の整備状況

・国道４号

平成16年12月　渋民バイパス（ L=2.5km）開通

平成27年4月　渋民バイパス（ L=3.1km）開通

・国道４６号

平成25年12月　盛岡西バイパス（ L ＝7.8km）全線開通

○地域高規格道路の整備状況

・宮古盛岡横断道路（宮古～盛岡）

平成25年3月　簗川道路（ L=6.7km）開通

平成28年3月　都南川目道路（川目IC～田の沢IC、L=2.6km）開通

令和元年12月　都南川目道路（田の沢IC～手代森IC、L=3.4km）開通

8. 今後の事後評価及び改善措置の必要性

事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。

9. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

当該事業の整備目的について効果発現を確認できており、事業評価手法の見直しの必要性はない。